

自由とは…

気候が変わり生き物が動き出すと子ども達もせわしく、虫などの小さな生き物を追いかけるようになりました。ダンゴムシやミミズなどがどこに潜んでいるのか良く分かっています。だから植木鉢やタイヤの花壇をひっくり返して、虫を探すのです。気持ちは分かります。しかし、物を壊してまでしてその欲求を満たさないといけないものでしょうか？特にタイヤの花壇は、自転車が行き来するサーキットとして配置しています。

先日私は、3.4.5歳児(ひまわり、ゆり、すみれ組)の子ども達を集めて、この問題について問いかけました。タイヤが並べてあるところは、道路と同じ。安全に自転車が走行できるコーナーであると説明しました。タイヤの花壇を壊して虫を捜すことは良いことなのか？ほとんどの子ども達が、首を横に振りました。理解は、しているようですが、虫を捕まえたいばかりに、物を壊してしまう。子どもらしい行動と言えば、それまでですが…。

自由の中にも踏み入れたらいけないものが、園にも多々あります。大人になって人の家のものを壊したら「器物損壊」と言う罪になることも話しました。一見難しい話のように感じられるかもしれませんが、しかし、**子どもの世界で起こったことを大人の社会にあてはめて説明すると、子ども達の理解は早いように思います。自由が保障されるのは、その決まりがあって、それを守ってからこそのこと。**一旦解散して、5歳児さんだけにもう一度「あなたたちが、年下の友達に教えてね」と託しました。

経験したことを遊びに…(見立て遊び)

先週社協3園の5歳児は、イルカランド(串間市)に行ってきました。イルカランド行きが決まった時は、それは大喜びの5歳児(すみれ組)さん。この日を楽しみにしていました。今回イルカランドへの遠足を計画したのは、子ども達の遊びの広がり期待してのことです。3園の子ども達は、積み木や個々の制作物を使って、動物や海の生き物、虫や恐竜などの世界を表現する遊びを、年間を通して行っています。子ども達は、絵本や図鑑、映像で見たイメージから、表現しています。しかしそれだけの媒体では、限界があります。そこで、子ども達のイメージを共有してよりリアルになるように、5歳児さん全員が一同に本物を見学できる機会を設けたわけです。

そうクラスは、以前から海の世界を積み木や折り紙、LaQなどで作る遊びが継続していました。きりんやぱんだクラスもそれが飛び火し、独自の街や建物などを作る遊びが、広がる中でイルカランド行きになりました。

見学後は、色紙を折ってカメ(ウミガメ)やイルカ、ペンギン、カニ。切り絵の手法を使い、水槽で泳いでいたいろいろな魚。LaQでは、デンキウナギやクマノミ、ヒトデ、チンアナゴ。なんと体長が30cmにもなる大作の伊勢エビも作っています。

特にこのLaQは、1辺が2cmにもならない7種類のパーツを組んで作ります。もちろん作り方の手引き本はあるのですが、平面のパズルを組み合わせるのとは雲泥の難しさです。目と3本の指先を協応させ、想像を膨らませながらコツコツと作り上げる子ども達には、感服させられます。

子ども達の遊びは、家庭や社会の模倣です。海や虫、動物の世界も同じ。見たり、聞いたり、経験したことを自分たちの遊びに取り入れる天才です。私達は、子ども達が経験したことを通して、その想像を広げたり、友達と協働して遊びが展開できるように、人的にも物的にも環境を整えていこうと考えています。

5歳児さんはモデル

本日お知らせした、上の2つの話題は、どちらも5歳児さんに共通するものです。イルカランド行きを知った時、子ども達は、自分たちだけと優越感を感じたはず。年下の友達が色紙の折り方やLaQの組み方に困っている時、手を差し伸べてくれるのが年長さんです。長縄の連続跳びや颯爽と投げるこま回し、お猿さんのように身軽に上るクライミングも年下の子ども達から見たら、「すごい!」「かっこいい!」の対象です。「〇〇さんのようになりたい…」と思っているはず。園の遊びも秩序をつくり守るのも全てが、**5歳児さんがお手本なのです。**

5歳児の子ども達が園の代表である優越感と責任は、表裏一体。そして遊びや運動などの活動が、年下の子ども達の『あこがれ』や『目標』となるように、私達大人も良きモデルを示していきたいと思えます。